



広報

なま

市民の友

第621号 毎月1回発行
2002年(平成14年)

10月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
*()内はうち外国人	
2002(平成14)年8月末現在	
総人口	306,886(1,777)
男	148,438(920)
女	158,448(857)
世帯数	119,311(1,006)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	85,962
真和志	106,081
首 里	58,437
小 禄	54,629



新都心の
ランドマーク

水運ぶ白い山原船



県内最大の2万立方メートルの
「泊配水池」が完成

市民生活になくてはならない水を安定供給する施設として新都心地区を見渡す丘の上に「泊配水池」が完成しました。

平常時の安定供給に加え、万一地震が発生した場合でも緊急遮断弁により、同配水池の水が緊急用水として確保できるようになっています。本市のまちづくりの基本理念のひとつ、「歴史・文化を感じさせる景観づくり」のスタンスと泊地域が港を中心として栄えた内外への海路の要地として栄えた経緯をふまえ、外壁面のデザインは山原船の帆をイメージしました。

9月2日に行われた通水式で、関係者を前に翁長雄志市長は「今後も市民に安全でおいしい水を供給できるように努めます」と笑顔で完成を喜び、安定供給の願いをこめて、我那覇生隆市議会議長、高嶺晃水道局長とともにバルブをまわし、通水を開始しました。

その日は朝からの豪雨が式典前にはすっかり晴れ上がり、旧泊浄水場から生まれ変わった泊配水池への嘉例をつける雨となりました。

「大切な水を運ぶ白い船」は県内最大の有効容量2万立方メートル、直径50メートル、高さ13・3メートル。北は安謝地区から南は壺川地区までの市民約6万人の水を運ぶこととなります。

主な紙面

- (2面) ごみ減量できれいなまちに
- (3面) 祝「敬老の日」
- (4面・5面) 快適に安心して暮らせるまちづくりを
- (6面) 市職員の給与・職員数
- (7面) 情報PACK

支店の 視点⑦

ふくだやすまさ
福田靖正

(沖縄都ホテル取締役社長)

1941(昭和16)年生まれ。山口県防府市出身。65年近畿日本ツーリスト(株)入社。主に本社経営企画および東京地区営業部門で勤務。九州営業本部長、取締役国内旅行部長、総務部長等経験の後、昨年6月沖縄観光開発(株)社長就任。ホテルの庭で、沖縄のチョウチョ「おおごまだら」を飛び交わせようと勉強中。

昨年の六月末から那覇の町にお世話になり、一年と三ヶ月が過ぎました。国際通りの一万人のエイサーも二回目で見物の要領も上手くなりました。

毎日沖縄通りから国際通りを抜け、首里の都ホテルへ通っています。このコラムのお話をお受けした頃の沖縄通りは、鳳凰木(ホウオウボク)の花が満開で、その朱と緑の鮮烈さに毎朝爽快な気分になりました。しかし、沖縄通りから国際通りに入ると、街路樹がまばらになり、なんとなく潤いの無さを感じます。

学生時代を「杜の都」仙台で過ごしたり、これまでの仕事柄、各国の町並みや公園を見る機会の多かった私は、街中に占める街路樹や緑の割合がとても気になります。都ホテルのスカイラウンジから那覇の町を一望すると、街中の緑は結構多く、白い家並みに濃緑の木々がうまく重なればコルドバやグラナダといったスペイン、アンダルシアの景色を上回るなとも思

つたりします。しかし、その大半が公園や墓所に固まっています。街路樹はあまり多くありません。私がお世話になり始めたことから、九三歳になる母が温暖な沖縄の気候を喜び、名古屋から一人で行ったり来たりして既に三回、延べ四ヶ月滞在してくれています。車椅子で近辺の散歩や買い物を楽しむのですが、やはり夏の日の強い日差しには閉口したようです。先日の台風十六号でホテルの樹木も倒れたり傷んだりしたものが多くありました。沖縄で街路樹を育てるのはとても難しいことなのかもしれないですが、これまで以上にみどりを広げる活動を市が推進され、私たち企業や市民の方々もそれに応えて身近なところから花や緑を増やすお手伝いができればと考えています。

仙台的な青葉通りのように国際通りの歩道を真っ赤に咲いた鳳凰木が覆い尽くし、強い日差しを遮れば、旅行者や地元の方達も、爽やかな木陰の散歩を楽しめることでしょう。



みどりを広げるには市のバックアップはもちろん、やはり地域の協力が必要です。もうひとがんばりですね。

あなたのまちに自治会がありますか。市では自治会づくりのお手伝いをしています。(市民活動課 ☎862-9955)